

p112 「一問一答」

1. かぜ薬はかぜの原因となっているウイルスの増殖を抑えたり、体内から排除したりするものである。
2. かぜの原因には、冷氣や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因による場合もある。
3. 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
4. かぜをひいたときは、どんなときでも、かぜ薬を選択すべきである。
5. 気管支拡張作用によって呼吸を楽にし、咳を鎮める目的で、トリメトキノール塩酸塩水和物やメトキシフェナミン塩酸塩が用いられることがある。
6. ブロムヘキシシン塩酸塩、グアイフェネシンはいずれも去痰成分である。
7. インフルエンザは感染力が強く、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
8. 発熱や頭痛を伴って悪心・嘔吐や、下痢等の消化器症状が現れた場合はかぜではなく、ウイルスが消化器に感染したことによるウイルス性胃腸炎である場合が多い。

【解答】

1. × かぜ薬はかぜの諸症状を緩和するものであり、ウイルスの増強を抑えたり、体内から排除したりするものではない。

2. ○

3. ○

4. × かぜをひいたから必ずかぜ薬とは限らない。熱や頭痛だけのときは解熱鎮痛薬、咳と鼻水なら抗ヒスタミン成分を配合した鎮咳去痰薬等、症状に合わせて選択する。

5. ○

6. ○

7. ○

8. ○